

この画面の中にどんな危険がありますか？（四輪車運転中）

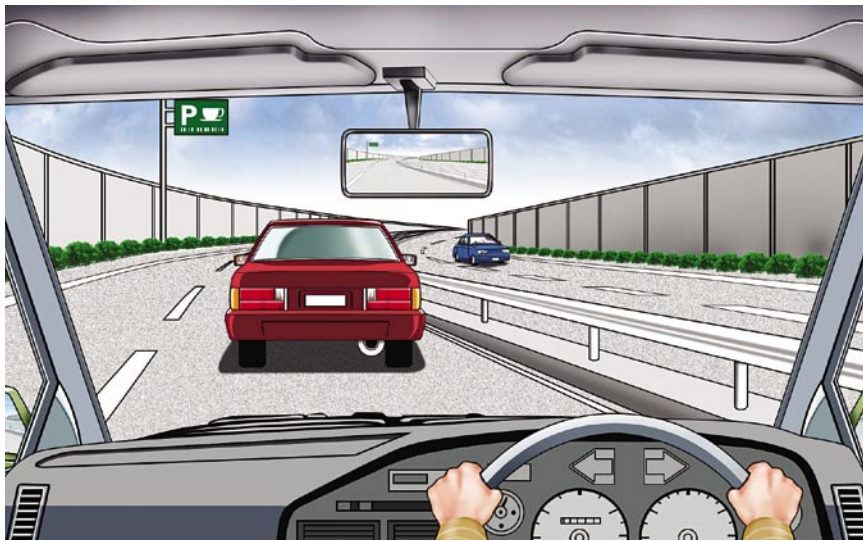


事故を起こさない運転に必要なのは、  
車を操作する運転技術とともに  
社会人としての自覚と、  
常に危険を予測できる能力です。

### 復習問題

友達や家族の方とやってみましょう。

急ぎの仕事で、高速道路を走っています。（2車線、最高速度制限:100km/h）  
左の走行車線は車の流れる速度が遅かった（80km/h程度）ので、  
追い越し車線に移り速度を上げたところ、先行車に追いつきかかっています。  
前方には、右カーブが見えてきています。



- Q1. ご両親など、社会人で運転経験のある方に、この場面でどんな危険があると思うか聞いてみましょう。
- Q2. ご両親など運転される方に、どのようなときに事故の危険を感じたかを聞き、社会人としてどのような行動をとればよいか、みんなで考えてみてください。



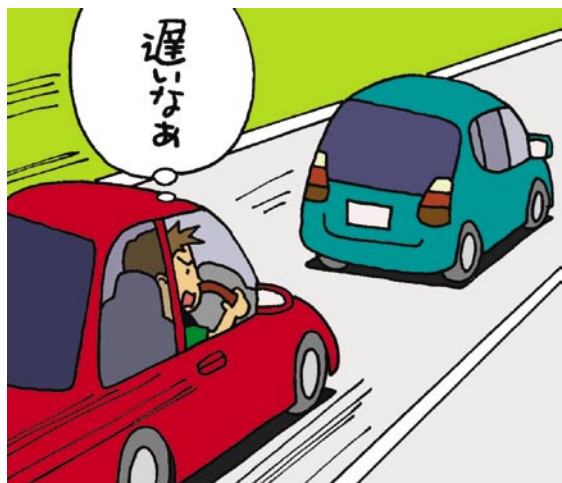
→解説は次ページに！



## 復習問題の解説

この問題の状況には、以下のような「見える危険」と「見えない危険」があります。社会人として運転経験のある人は、日ごろどのような点に気をつけて運転をしているのか、「見える危険」「見えない危険」をどのように見つけて回避しているのか、などについて話し合しましょう。

### ●見える危険

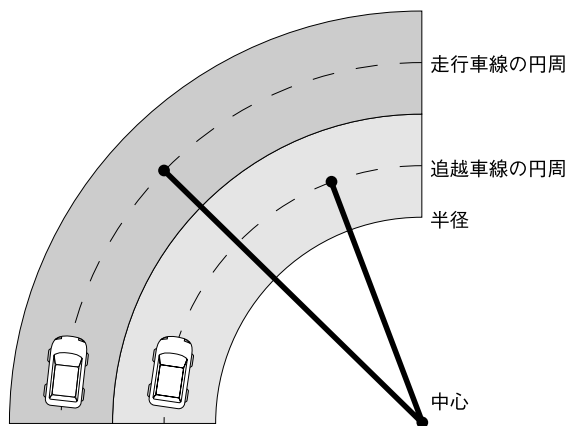


先行車の急な減速で車間距離が急につまる

### 【見える危険】

- ①先行車との車間距離がつまりすぎているという危険  
先行車が何かの理由で急に速度を落とした場合、止まきれずに追突してしまう危険があります。通常、100km/hで走行している場合、安全な車間距離は100mです。
- ②先行車にばかり視線が集中してしまうという危険  
目前の先行車にばかり気を取られ、先行車の前方や走行車線の車の動きに目がいなくなる可能性があります。たとえば、前方が渋滞している場合、車の流れが遅くなったり、ハザードランプを点滅させて後続車に渋滞を知らせてくれる車があったりしますが、これらの情報を見落としがちです。
- ③運転しているドライバー(あなた)の気持ちの中の危険  
焦ったり急いだりしているときは、危険情報を見落としたり、判断ミスをしやすくなります。
- ④先行車のドライバーの気持ちの中の危険  
先行車に進路を譲ってもらおうとパッシングライトを使ったり、プレッシャーをかけるように追い上げると、先行車のドライバーは焦りや怒りから、危険情報を見落としたり、判断ミスをしやすくなるのが考えられます。

### ●見えない危険



カーブのきつさは、カーブに入らないとわかりません。右カーブでは、追い越し車線の方がカーブがきつくなっています

### 【見えない危険】

- ①近づいているカーブの危険  
カーブの手前ではブレーキを踏んで減速するドライバーが多くいます。とくに、カーブがきついほど、ドライバーは速度を落とします。この位置からではカーブの曲線はよくわかりません。
- ②カーブ曲線のきつさがわからないという危険  
カーブに入るときの速度が速すぎると、曲がりきれずに進路が外側に膨らんでしまうことがあります。また、そのときにあわてて急ブレーキを踏むと、スリップしたり横転する危険もあります。とくに雨などで路面が濡れているとスリップの危険は高くなります。右カーブの場合、走行車線よりも追い越し車線の方がカーブがきつくなっています(左図)なので、さらに注意が必要です。
- ③カーブの中の状況が見えないという危険  
カーブの中に入るまで、カーブの中の状況が見えません。急に車の流れが遅くなっていたり、道路に障害物が落ちていたりする可能性もあります。

●「危険を予測する」ことの大切さ

危険を見つけだし、適切な判断や対応をするには余裕が必要。  
常に先を読み、適切な速度や車間距離を選び、  
運転をすることが大切です。

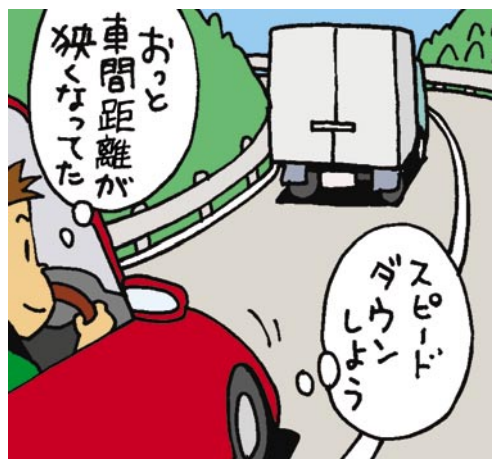
若者の死亡事故と最高速度違反

コラム1のグラフは、死亡事故の原因となった主な違反を、年齢層別に見たものです。16～19歳の場合、「最高速度違反」が5分の1を占めていることがわかります。

また、実際の事故では、「最高速度違反」の他、「わき見」や「前方不注意」、「動静不注意」、「安全不確認」などの違反が多くなっています。

スピードが速いほど、  
判断や操作ミスの影響が大きくなる

安全運転のためには、危険を見つけだし、それを回避するために適切な判断をすることが不可欠です。しかし、スピードが速くなると、ほんのわずかな時間のわき見の間にも車は何十mも進みますから、見落とす情報量は増えます。判断するための時間も短くなり、焦りは正常な判断や操作を狂わせます。そして、ほんの少しの判断や操作のミスが、スピードが速い大きな



危険を予測し、回避するための判断力が大切

エネルギーを持った車の場合、大きな事故につながるのです。

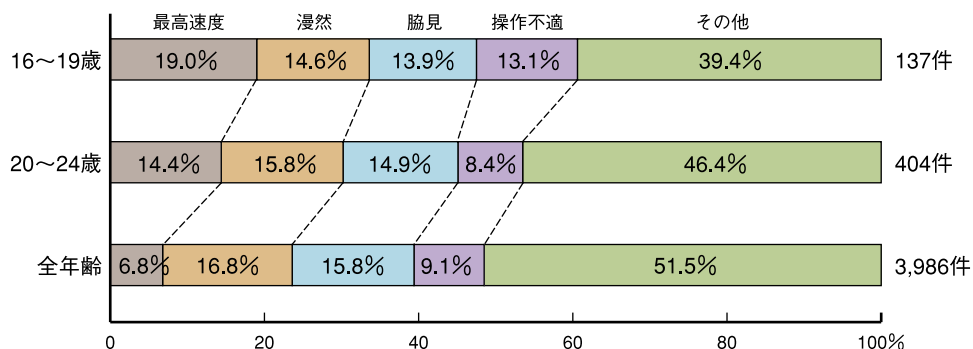
社会人として責任を持った安全運転のためには、まず危険を危険として気づく知識を身につけ、さらに、その知識を正しく生かす速度や車間距離を保って走ることが大切です。

コラム  
1

死亡事故とスピードの関係

16～19歳では、死亡事故の原因となった違反の5分の1は最高速度違反です。

グラフ1 自動車など(原付以上)運転者の違反別・年齢層別死亡事故件数(1当)



※ 1当:加害者

(財)交通事故総合分析センター 平成20年



新聞や本などの資料、インターネットなどを使って、調べて考えてみましょう

- 車の運転は、その職業にどのように関係しているか考えてみましょう。 →

-----  
-----  
-----

- 万一、あなたが仕事に車で事故を起こしたら、どこにどんな影響があるか考えてみましょう。 →

-----  
-----  
-----



## 車の運転は知識だけではできない

堀内武徳 堀内経営研究事務所 所長

### MESSAGE

免許さえあれば、車の運転さえできれば、職業ドライバーになれると思っている人もいるかもしれません。とんでもない。たとえばトラックドライバーの場合、事故を起こさない運転、地球環境に貢献できる運転が求められます。さらに、荷物を積む、積んだ場合の措置、輸送中の荷物に対する配慮、到着してからの荷物の降ろし方、お客様との接し方、すべてを1人で行わないといけません。一人前の職業ドライバーになるには、3年かかります。

もし、ドライバーが事故を起こしたらどうなるでしょう。企業は収入を得るところか、信用を失います。信用を回復するには大変な時間を必要とします。運送会社にとって、信頼できるドライバーをいかに育てるかが大切なのです。

会社内の仕事ならば、何かあればその場ですぐに相談できますが、車の場合、いったん運転を始めたら、すべて自分の責任でさまざまな状況に対応しなければなりません。十分に責任を果たせる人材にしか、車を与えることができないということです。